

10月の科学あそび分科会

# ドングリ笛

10月28日(月)

小金井学習センター

担当・報告：小川真理子

今回の科学あそびは、ドングリの中味を掻き出して笛を作るという単純極まりないものです。それだけでは「科学」とは言えないかな・・・と、今まで集めたいろいろな種類のドングリとその葉を持って行きました。そして、机の上に「コナラ」「スダジイ」などと書いた紙を並べて、それぞれの葉とドングリを紙の上に置いていくというクイズ(?)をしました。参考図書として、『ひろってうれしい 知ってたのしい どんぐりノート』(いわさゆうこ 大滝玲子 作 文化出版局)と東京新聞の10月13日号の「どんぐりと私たち」という特集を持っていったのですが、結果…「どれも似ていてわからない!」という声が圧倒的でした…(残念)。確かに、よく見れば「ミズナラの葉は葉柄がほとんど無い」とか「アラカシの葉は上のほうにだけ鋸歯がある」とか違いはありますが、なぜそうなっているのだろう?と考えると不思議ですね。ドングリの木にとっては、違いなんてどうでも良いのかも知れません。



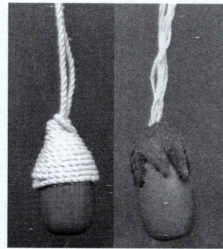
さて、用意したマテバシイや各自持参したクヌギなどで、笛を作り始めました。まず殻斗についていたヘソの所をカッターで丸く切り



取ります。そして、中の種子を掻き出すだけ。その時にとても役立つのが、金属の耳かきです。カッターでの切り取りはとても危ないので、子ども達と遊ぶときにはこの部分はやっておきます。また、今回はヘソを切つてすぐに種子を掻き出したので問題ないのですが、前もってドングリのヘソを切り取っておく場合は、時間が経ちすぎると中味が乾いて固まってしまい、耳掻きが入らなくなるので、注意が必要です。完全に種子部分を掻き出して、完成。子ども達は作った笛で音を出すところが一苦労なのですが、さすがに研究会の皆さんはすぐにきれいな音を出していました。



折角作ったドングリ笛です、紐をつけて首から上げられるようにしました。フェルトや布で帽子を作って紐を通して良いですし、紐をどんぐりに巻き付けてとんがり帽子のようにしたものもかわいいです。



縄文人が食べていたというドングリですが、アクがあり、アク抜きをしないと食べられません。その中でマテバシイとスダジイだけはアクがないので、昔の人は重宝したのではないのでしょうか。スダジイは炒るとパチッと殻が割け、中味はほんのり甘いです。マテバシイは殻を割って中味を取り出し、つぶしたり粉にしたりして使います。今回はマテバシイの粉で作ったクッキーを、賞味していただきました。

